

第4学年 総合的な学習の時間指導案

1 単元名 みんないっしょにしあわせになる社会

2 単元設定の理由

健康な体を持つ児童にとって普段の生活の中で、不便さを感じる場面は少ないように思える。廊下を歩くこと、階段を登ること、トイレに行くこと、給食を食べること、学校内のことだけでなく、学校外に出ても同じである。しかしながら、世の中には健康な体を持つ人だけではなく体の不自由な方々などもおり、「当たり前」と感じている自分たちの生活感覚とは違う人もいる。そういった現実には児童たちは直面していないように思える。そういった人たちも含めて、どの人にとっても「当たり前のことを当たり前」を誰もが自然に実現できる社会づくり（ノーマライゼーション）の考えを児童たちには学んでほしいと考えた。

まず、「みんなが幸せになる社会」とはどんな社会だろうというところから、自分の身の回りで困っている人に目を向けさせて、個人の努力ではどうにもならない「手をかして欲しい人」について考えていきたい。そこで出てきた、体の不自由な方々に目を向けさせ「本当に必要な手助け」とはどのようなことかを考えさせて課題をつかめるようにする。その後、自分たちで車いすの体験を行い、実際に使っている方に話を聞いたり、視覚障がいの方に話を聞いてガイドヘルプの体験をしたり、肢体不自由な方々のスポーツであるボッチャを体験したり、個々に感じたことをもとにして課題を設定していきたいと考える。

体の不自由な方々に目を向ければ、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催される中で、千葉市もゴールボール、車椅子フェンシング、シッティングバレーボール、テコンドーのパラリンピックの競技会場になることから、少しでもノーマライゼーションの考えをもち、相手の気持ちに寄り添えるような児童が2020年に向けて増えていけばと願う。

3 児童の実態について

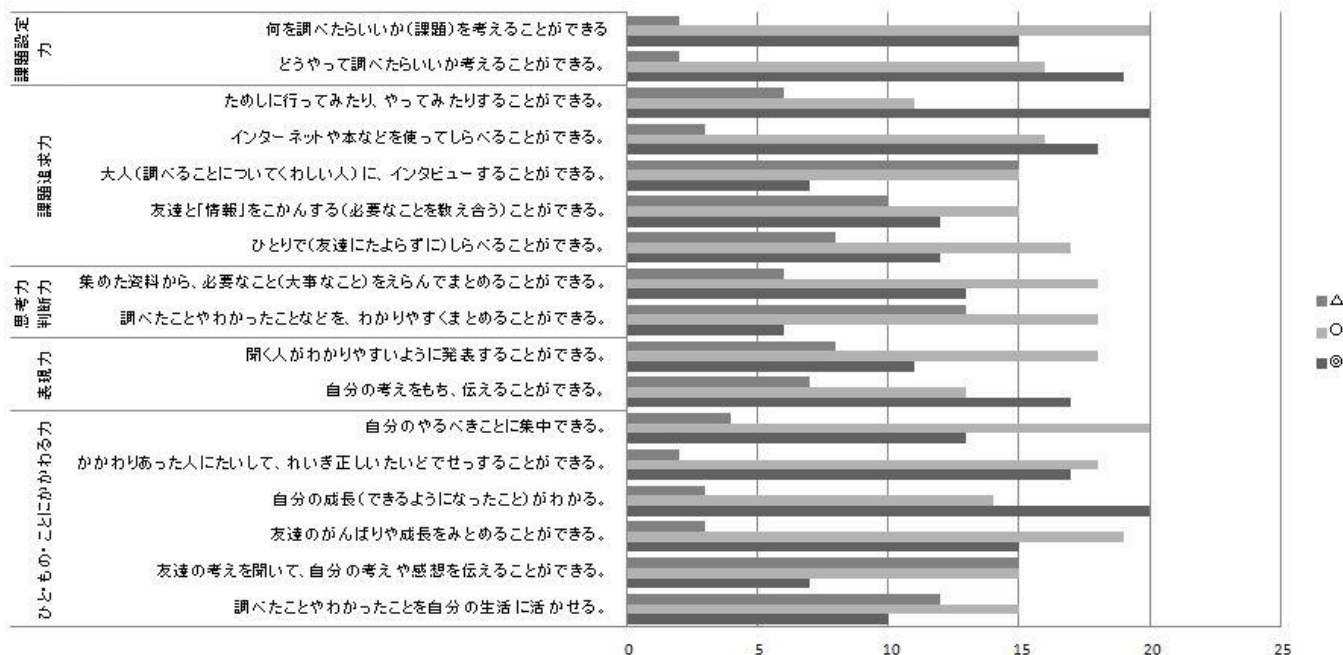
児童の総合的な学習に対する意識は高く、好きな教科を聞いたアンケートでは上位3位以内に「総合的な学習の時間」を挙げる児童が大半である。自分の知りたいこと、興味があることを調べられたり、みんなで協力して調査したりする活動も楽しいと感じる児童が多く、主体的に学ぶ姿が多く見ることができる。

児童は、昨年度初めて総合的な学習の時間に取り組み、意欲的に活動を行ってきた。学級の中でのボランティア活動やあいさつなどの良いところや、廊下歩行のマナーやルールなどの悪いところに気付いて、悪いところについては改善策を講じ、望ましい学級生活を行うことを当初の目標にして第1サイクルを行い、第2サイクルにおいては、対象の範囲を広げ学校全体の良いところ、悪いところを見つけて、自分たちから良くするための働き掛けをすることで、望ましい学校全体のあり方について考えた。学級内・学校内から「課題」を見つけて、アンケート活動やインタビュー活動などを行い「情報を収集」し、どのような働き掛けをするべきか「分析」を行い、ポスターや呼びかけなど自分たちが「表現」して活動を行った。1年間を通して、総合的な学習の時間に必要な探究的な学習の仕方について学んだ。しかし、活動の中で「整理・分析」が不十分なため必要な情報と必要でない情報の取捨選択ができずに、「まとめ・表現」の段階でまとめることが多くなってしまい本当に伝えたいことが何かをうまく伝えきれない児童が多数いた。そこで、今年度「4年3組PR大作戦～広めよう千葉市編～」では、『思考ツール』を活用して千葉市の良いところを調べてきた後に座標軸を使い、本当に必要で伝えたいことを絞り込み「整理・分析」をすることで、「まとめ・表現」ではより大切に伝えたいことに絞って、発表することが少しずつできるようになった。

しかしながら、下記の事前の自己評価を見るとやはり「調べたことやわかったことなどを、わかりやすくまとめることができる。」の「整理・分析」の部分に不安を持っている児童が多く、項目の中から3つ「伸ばしたい力」を選ばせた際にも、この項目を伸ばしたい力に挙げている児童が多いことがわかった。

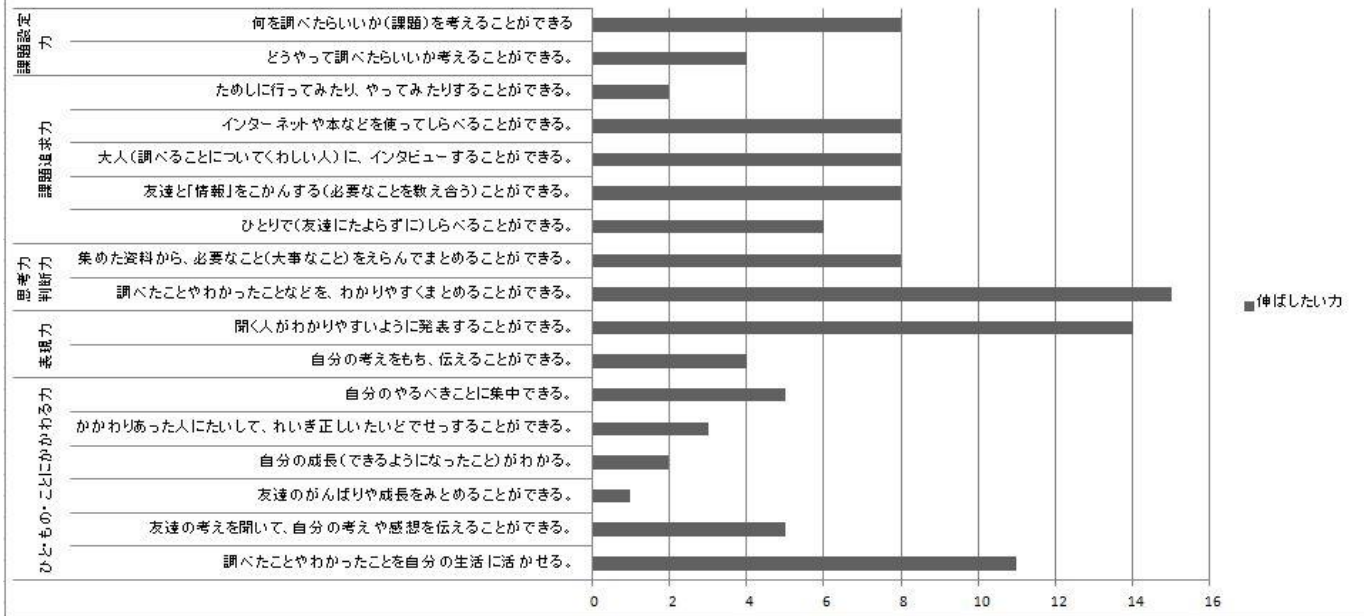
こうした実態を踏まえて、本單元では引き続き「整理・分析」の場面で思考ツールを使い、よりみんなが知りたいこと、より自分が伝えたいことを絞り込み「まとめ・表現」に生かしたいと考えた。また、体験活動を増やすことで普段考えることのない体の不自由な方々の苦勞や、障がい者スポーツに取り組む人々のすごさなどを身近に捉えてから自分たちの課題に入ることで課題に対する意欲付けも図れるのではないかと考えた。

自己評価(事前調査)



		◎	○	△
課題設定力	何を調べたいか(課題)を考えることができる	15	20	2
	どうやって調べたいか考えることができる。	19	16	2
課題追求力	ためしに行ってみたり、やってみたりすることができる。	20	11	6
	インターネットや本などを使ってしらべることができる。	18	16	3
	大人(調べることについてくわしい人)に、インタビューすることができる。	7	15	15
	友達と「情報」をこかんする(必要なことを教え合う)ことができる。	12	15	10
	ひとりで(友達にたよらずに)しらべることができる。	12	17	8
思考力 判断力	集めた資料から、必要なこと(大事なこと)をえらんでまとめることができる。	13	18	6
	調べたことやわかったことなどを、わかりやすくまとめることができる。	6	18	13
表現力	聞く人がわかりやすいように発表することができる。	11	18	8
	自分の考えをもち、伝えることができる。	17	13	7
ひともの・ことにかかわる力	自分のやるべきことに集中できる。	13	20	4
	かかわりあった人にたいして、れいぎ正しいいどでせつすることができる。	17	18	2
	自分の成長(できるようになったこと)がわかる。	20	14	3
	友達のがんばりや成長をみとめることができる。	15	19	3
	友達の考えを聞いて、自分の考えや感想を伝えることができる。	7	15	15
	調べたことやわかったことを自分の生活に活かせる。	10	15	12

自己評価(伸ばしたい力)



※「伸ばしたい力」については、児童に3項目に絞らせて設定をさせた。

4 単元の目標

- 障がいのある人との交流や体験活動を通して、障がいのある人の感じ方や考え方を理解し、その人の立場に立って考えることができる。
- 障がいのある人と共に暮らしていくために、自分たちにできることを考え、実践しようとする意欲を高める。

5 評価規準

課題設定力	課題追究力	思考力・判断力	表現力	ひと・もの・ことに関わる力
<ul style="list-style-type: none"> 体験したことをもとに、自分にできることはなにか、みんなですていくべきことはなにかを進んで考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な方法を用いて必要な情報を集めることができる。 課題解決へ向けて、何をどのような方法で取り組んでいくか、考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べた情報の比較、検討を行い、自分に必要な情報を取捨選択できる。 必要な情報をわかりやすくまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題について調べたことを、どのような方法で伝えるのが良いかを考え、効果的な発信を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちだけでなく、友だちや親、自分の課題に関わる人々と学習を進めることができる。 自分たちにできることを考えて、生活の中で生かそうとしている。

6 指導計画（29時間）

過程	主な学習活動	学習形態	教師の支援 ☆観点別評価【評価の方法】	時数
課題を設定する	<ul style="list-style-type: none"> ○『みんなが幸せになる社会』について聞き取りを行う。 	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取りを行う中で、身の回りで困っている人について視点を持ち、その人たちは何が困っているのかを考えさせる。 ・手助けや支援が必要なのかを知るためには、本人たちの話を聞かないとわからないことに気付くように声かけする。 	2
体験する	<ul style="list-style-type: none"> ○実際に自分たちが車いすに乗り、1日車いすで学校生活を送る。 ○車いすバスケットを見学して、話を聞く。 ○ふれあいトークで、視覚障がいの方の色々なお話を聞き、ガイドヘルプの体験を行う。 ○障がい者スポーツであるボッチャの体験を行う。 	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活との違いを感じさせ、自分たちにできることを考えながら活動するようにしていく。 <p>☆ひと・もの・ことに関わる力 【活動の様子・ふりかえり】</p>	4
課題を設定する	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が取り組みたい課題を決め、その理由について記述する。 <ul style="list-style-type: none"> ・体の不自由な人の思い ・体の不自由な人たちの1日の生活（目・耳・車いす） ・障害者スポーツ ○グループで顔合わせを行い、各々取り組みたいことや理由を伝え合う。 ○グループとして取り組む調査や課題解決等の活動内容の計画を立てる。 	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みたい活動内容や理由、メンバーを考慮しながら、グループの編成を行う。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・グループとして目指すべき姿を確認しながら、計画内容について助言していく。 <p>☆課題設定力 【発言・学習カード】</p>	3

情報を収集する	<ul style="list-style-type: none"> ○グループごとに情報を収集する。 ・本やPCなどを使って情報収集をする。 	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館司書の先生と相談して、各課題にあった本の選定や、インターネットのHPなどを選定しておく。 <p>☆課題追究力 【学習カード】</p>	3
情報を整理する	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちが伝えたいこと、みんなが知りたいことが何かを整理・分析する。 ・ボックスチャートを使い、収集した情報を伝えたい情報、必要な情報に絞り込む。 	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが考える視点だけではなく、より多くの人にわかりやすく伝わるような情報に絞り込むように助言する。 <p>☆思考力・判断力 【発言・ワークシート】</p>	1 (本時)
情報を収集する	<ul style="list-style-type: none"> ○グループごとに情報を収集する。 ・本やPCなどを使って情報収集をする。 ・FAXやメールなどでインタビューや質問を送る。 	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで調べ足りなかったことを、体験でお世話になった障がい者の方々にインタビューをしてもよいことを助言する。 <p>☆課題追究力 【学習カード】</p>	6
まとめ、表現する	<ul style="list-style-type: none"> ○障がいのある人達との接し方の課題や、これから取り組むべき問題、障がいのある人達のすごさなどをまとめる。 ○学習発表会に向けて、準備・練習をする 	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く人にとってわかりやすい内容となるよう発表方法を工夫する。 ・聞き手により伝わるように、他教科で学習したことを生かしていくように助言や支援を行う。 <p>☆表現力 【発表用資料】</p>	6
	<ul style="list-style-type: none"> ○PMI表を使ってお互いの発表を見合い、発表内容の長所や短所を発言し合う。 ○PMI表を参考にして、発表会に向けての発表内容の修正をする。 	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の発表のよいところ、悪いところを具体的に話し合えるように見合うポイントや、思考ツールの使い方について、しっかりと確認する。 ・発表の中心がしっかりとしているか、より相手に分かりやすい発表の内容になっているかを確認するように助言する。 	2
	<ul style="list-style-type: none"> ○学習発表会で発表する。 	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい発表になるように支援する。 <p>☆表現力 【発表用資料】</p>	2

振り返る	○これまでの学習を振り返り、自己評価を行う。	個人 ↓	・自分の初めの自己評価と比較しながら、自分が特に伸ばしたい力が伸びたかを学習をふりかえりながら自己評価するよう声掛けする。	5
	○単元はじめに行った全校アンケートを改めてとる。	全体	・発表で終わりでなく、相手の気持ちを考えて障がい者の人と、どのように関わっていくかを考えるように声かけをする。 ☆ひと・もの・ことに関わる力 【発言・ワークシート】	

7 研究主題との関連

【視点1 ひと・もの・ことにかかわる探究的な学習】

○「体験活動」を通じた課題設定

今回の学習では、「当たり前」と感じている自分たちの生活感覚とは違う人と実際に会って、話を聞いてみたり、インタビューしたり、体験してみたりすることで、今まで「当たり前」で感じてこなかった部分や、考えてこなかった部分について気付くのではないかと考えた。その気付いたことから課題を持ち、学習していく中で困っている人には声をかける、手を差し伸べる、助ける、どの人にとっても「当たり前のことを当たり前」を誰もが自然に実現できる社会づくり（ノーマライゼーション）の考えや、支えあい、共に生きることの意義に児童たちは気付くのではないかと考えた。

○「ゲストティーチャー」の活用

児童が体の不自由な人の話を聞いたり、体験したりするなかで、その人たちがどのような生活をして、どのような思いでいるかを知り、児童一人一人が相手の立場、気持ちに寄り添うような考えになるのではないかと考えた。また、障がいの種類や程度だけでなく、「思い」の部分に着目して、ゲストティーチャーの方と複数回やり取りする中で、本質的な理解につながるのではないかと考えた。

【視点2 子ども自身が、自分の成長を実感できる評価の工夫】

○自己評価カード、学習カードの活用

単元の前で評価規準に即した「身につけたい力」として児童に提示して、自分はどれだけ身につけているか学習のはじめに自己評価させた。また、特に「伸ばしたい」と思っている項目については意識させるように、自己評価カードに欄を加えておいた。また、学習で使う学習カードにも毎時間それぞれの自己評価を書くようにした。その際自己評価の観点は、「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の各学習段階に応じた項目を教師側で絞りこみ、単元の初めに確認してから活動に取り組むようにすることで、児童が身に付けたい力を意識して学習に取り組むことができるのではないかと考えた。

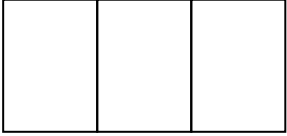
8 本時の展開

(1) ねらい

ボックスチャートを使い、調べた情報を必要な情報、伝えたい情報に絞り込み整理することができる。(思考力・判断力)

自分の課題に関わる人と学習を進めることができる。(ひと・もの・ことに関わる力)

(2) 展開 (12/29)

学習活動	○教師の指導・支援 ◇評価
<p>1. 前時までの学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの調べてきた情報について確認する。 <p>2. 本時の学習について確認する。</p>	<p>○前時までの内容を振り返り、本時でやるべきことについて確認する。</p> <p>○自分たちの情報に、伝えるときに本当に必要な情報と必要のない情報が混在していることを確認する。</p>
<p>自分たちが伝えたい情報をまとめよう。</p>	
<p>3. ボックスチャートの使い方・注意点を確認して作業を行う。</p> <div data-bbox="247 801 742 1081" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> みんなが書いた中でキーワードになるものはどれかな。 自分たちのグループの発表では、このことは伝えたいよね。 ここに書いてあることと、ここに書いてあることはまとめられそうだよ。 	<p>○学習カードで個人の「今日の目標」を確認させる。</p> <p>○ボックスチャートの中身については、おおまかに発表の時の軸となるものを3つか4つ決めて、ボックスを区切るように説明する。</p> <p>○思考の邪魔にならないように留意しながら机間指導を行い、方向性について助言をする。</p> <p>○グループの中で話し合いながら、より伝えたい情報、より必要な情報に絞れるように助言する。</p> <p>◇ボックスチャートを上手に活用しながら情報を整理することができる。 (思考力・判断力) 【発言・ワークシート】</p> <p>◇グループの中で話し合いながら、情報を整理しようとしている。 (ひと・もの・ことにかかわる力) 【発言・ワークシート】</p>
<p>4 活動の振り返りを行う。</p>	<p>○ボックスチャートを使っていくなかで、良かったところ、悪かったところなどを発表してもらい、全体で共有できるようにする。</p> <p>○グループでどんな内容が話し合われて、これからどうしていくのか決まったことを共有する。</p>
<p>5 今後の予定を確認する</p>	<p>○個人のワークシートに、自己評価と活動の振り返りをくわしく書くように助言する。</p>